

# 私立大学研究ブランディング事業 2017年度の進捗状況

学校法人番号	281026	学校法人名	学校法人関西看護医療大学		
大学名	関西看護医療大学				
事業名	セラピーアイランド淡路島の構築を基盤とした地域活性化と看護教育カリキュラム開発に向けた研究拠点の創設				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	360人
参画組織	看護学部、看護学研究科、看護診断研究センター				
事業概要	<p>本事業の目的は、行政・市民・支援団体と一体となり、日本遺産淡路島の資源(ヒト・文化・自然)を活用した「セラピーアイランド淡路島」構築の研究・活動拠点を本学に創設することである。その事業活動を基盤として、人的・文化交流を推進することで地域住民の健康増進を図り、地域経済の活性化に寄与する。また、本事業の研究活動成果をもとにセラピーと看護を融合した看護実践能力向上につながるカリキュラムを開発する。</p>				
①事業目的	<p>本事業は、身体・心理・精神の改善をもたらす、人・自然・文化を介在した治療や療法を「セラピー」と定義し、以下を目的として展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本学を研究拠点とし、日本遺産淡路島の「セラピー」資源の発掘とその効果および実施方法を健康科学の側面から研究開発する。</li> <li>2) 本学において「セラピー」の提供を含めた妊娠・出産・育児・認知症予防・緩和ケア等のセラピー活用支援モデルの開発及び島内の公共未使用施設を拠点としたモデルの実施とその効果の検証を行う。</li> <li>3) 淡路島ブランドのセラピー資源の商品開発とその効果の検証を行う。</li> <li>4) セラピーと看護を融合したより独創的な看護教育カリキュラムを開発し、その成果を全国の看護教育機関等に発信する。</li> </ol>				
②2017年度の実施目標及び実施計画	<p><b>＜実施目標＞</b> 発掘したセラピー資源の効果の検証・公表、学内モデルの運用案の策定と施設開設、学外施設の開設準備、サークル活動と効果検証の継続、年次目標達成度の内部評価および外部評価の実施</p> <p><b>＜実施計画＞</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発掘したセラピー資源の効果的な実施方法と効果を検証し、その結果を「淡路島内セラピーマップ」等として作成、公表</li> <li>2) 学内モデルの運用と開設             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 認知症予防、緩和ケア、妊娠・出産・育児に係る方のためのセラピー技術、指導、サポート方法等の専門家による助言と研修</li> <li>(2) 看護診断研究センター研究部門、本学の教員(地域、老年、母性・助産、小児看護学等)と協働し、セラピーの実施と効果検証</li> <li>(3) モデルの実施場所となる学外の公共未使用施設の施設開設準備(改修)</li> <li>(4) サークル活動と効果検証の継続、経時的変化の明確化</li> <li>(5) 事業の内部評価および外部評価を行い、達成度の質の検討と次年度からの学外での効果的な事業運用に向けた具体策の策定。</li> </ol> </li> </ol>				
③2017年度の事業成果	<p><b>1) 発掘したセラピー資源の効果の検証・公表</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度抽出した淡路島内にあるセラピーについて、効果検証がなされているもののみ18件を抽出。どのような研究成果があるのかをマップ上に表わし、「第一次セラピーマップ」としてフェイスブック上に公開した。</li> <li>・4月より実行委員会を立ち上げ、夢舞台国際会議場における「マイセラピー 俳句さくさく淡路島」の実施計画を推進。研究結果を踏まえ「俳句の効用」について参加者に情報提供すること、淡路島にある自然や環境を活用したセラピーについて健康や癒しに関する情報を発信すること、セラピー体験の場を提供することを企画した。8月6日、約150名の参加者を迎え催しを開催した。</li> </ul> <p><b>2) 学内モデルの運用案の策定と施設開設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月より母性・小児看護学領域教員により実行委員会を立ち上げ、10歳以下の子どもと保護者を対象にした「親と子のふれあい健康広場」を5月4日「淡路ワールドパークONOKORO」で開催した。ハンドマッサージやダンス等のセラピーを提供。そこでのニーズ調査により、育児・健康増進に関する住民のニーズを明らかにすることができた。</li> <li>・学内モデル(KKISペースセンター)の改修工事に着手。多機能型スペースであること、安全性が確保できること、「癒し」のコンセプトが生きていることを重視し、高齢者や小児が使用することを前提にトイレスペースを広くし、車いすにも対応できる等工夫した。改修工事が10月に完成。学内モデル(KKISペースセンター)に関する情報をホームページにアップし、併せてロゴマークを策定、「お披露目会」も実施し、広報に努めた。KKISペースセンター完成後、地域住民に向けたセラピー提供活動の試行として計3回、KKISペースセンターを使用した活動を行い、収容人数・使用上の問題点・看護技術のセラピー効果等を具体的に検討した。</li> <li>・医学博士及び医療アロマコンサルタントより、アロマセラピーの方法や効果検証方法について、助言を得た。認知症患者に対するタッチング、子供に対するヨガ等について、看護技術としてカリキュラムに導入することを検討。ナーシングマッサージの研究者やヨガ指導者から看護技術として習得することの意義について助言を得た。</li> </ul>				

<p><b>③2017年度の事業成果</b></p>	<p><b>3) 学外施設の開設準備</b>          ・モデルの実施場所となる学外の公共未使用施設として、小学校跡地を候補に挙げ検討した。市との交渉を重ねたが、KKIスペース1をほぼ毎日オープンするという条件に適合せず、小学校跡地を活用することは断念せざるを得なかった。今後は、淡路島内の空きスペースをピックアップし、施設の仕様・設備・駐車スペース等を調査して、セラピーの実施計画に合う空きスペースをその都度活用するよう、計画を修正した。</p> <p><b>4) サークル活動と効果検証の継続</b>          ・セラピーサークルへの学生参加について説明し同意を得て、3つのセラピーサークル(つり・しんりん・スクーバダイビング)が活動を開始。サークル活動を軌道に乗せ、セラピー効果に関するデータを経時的に収集した。</p> <p><b>5) 年次目標達成度の内部評価・外部評価の実施</b>          ・学校施設の開設に関しては、断念せざるを得なかったが、他は概ね順調に計画を進めている。セラピーを看護技術としてカリキュラムに導入する準備も整いつつある。次年度は、①学外の施設を利用したモデルの実施と効果の検証、②セラピー技術習得のためのカリキュラム構築、③セラピー資源の評価をもとに商品化に向けた検討、④セラピーサークル活動と効果検証の継続を実施することとした。</p>
<p><b>④2017年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</b></p>	<p><b>&lt;自己点検・評価&gt;</b>          ※( )内は評点(5~1)を示す。</p> <p><b>1) 発掘したセラピー資源の効果の検証・公表(4)</b>          発掘した淡路島内のセラピーの中から、既に効果検証が行われているセラピーを18件ピックアップし、マップ上に表わし、「第一次セラピーマップ」を公表することができた。セラピー関連情報を発信し、セラピー体験の場を提供できた。効果検証が行われていないセラピーに対して、効果検証研究を進めるという課題が残っている。</p> <p><b>2) 学内モデルの運用案の策定と施設開設(4)</b>          目的に適合した多機能スペース「KKIスペースセンター」を開設することができた。また、地域住民へのニーズ調査により育児・健康増進に関する地域住民のニーズを明らかにすることができた。それに基づきKKIスペースセンター使用を試行し、活用方法や収容人数、カリキュラム構築に向けての課題を明確にすることができた。</p> <p><b>3) 学外施設の開設準備(3)</b>          モデルの実施場所となる学外の公共未使用施設の開設・活用について、淡路島の地方自治体と協議を行ったが、施設の利用頻度等の条件に合わず、開設することは困難となった。既存の施設を活用する方向へと計画を修正した。</p> <p><b>4) サークル活動と効果検証の継続(4)</b>          学内につりセラピー、スクーバダイビングセラピー、しんりんセラピーの3つのセラピーサークルを立ち上げ、活動を展開した。セラピー効果に関するデータを経時的に収集することができた。今後はデータを蓄積し、明確なエビデンスを得るという課題が残っている。</p> <p><b>5) 年次目標達成度の内部評価・外部評価の実施(4)</b>          本事業の自己評価および外部評価を踏まえ、次年度の実施計画に反映した。</p> <p><b>&lt;外部評価&gt;</b>          ・第一次セラピーマップを作成するとともに、大学施設を改修して、「KKIスペースセンター」として開設を行い、試行的に地域住民にセラピーを提供して好評を得た。ニーズ調査により、育児・健康増進に関する地域住民のニーズを明らかにしたことは、今後の事業展開に役立つものと評価できる。          ・淡路の自然と資源を活用するためのセラピーサークルを立ち上げ、つりセラピー、スクーバダイビングセラピー、しんりんセラピーの3つのセラピーサークルが活動を実施し、セラピー効果の検証に関するデータを収集することができたことは、その有効性の検証に向けて評価できる。次年度の事業実施の成果に期待したい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>* 達成度評価の基準</p> <p>5: 年度計画を上回って実施している</p> <p>4: 年度計画を十分実施している</p> <p>3: 年度計画を概ね実施している</p> <p>2: 年度計画を十分には実施していない</p> <p>1: 年度計画を大幅に下回っている</p> </div>
<p><b>⑤2017年度の補助金の使用状況</b></p>	<p>人件費 9,451千円          消耗品費 2,533千円          報酬委託手数料 1,489千円          施設関係支出 18,274千円          設備関係支出 5,126千円          賃借料、旅費交通費、雑費等 938千円</p>